

2016/05/23 (Mon.)

1. 測定の準備

測定機器の確認

- 測定機器の機種やそれらの間の配線などを確認する。

	製造元	型番など
直流電流・電圧源(抵抗試料電流印加用)	社製	
マルチメーター(抵抗試料電圧測定用)	社製	
マルチメーター(_____温度計抵抗測定用)	社製	
ロックインアンプ(交流磁化率測定用)	社製	

(配線図 → ノートにも書くこと)

測定用 BOX の確認

- 測定用ボックスを開けてみて、内部の配線のつながり方を確認する。

(配線図 → ノートにも書くこと)

測定試料の準備

- 試料が劣化していないかどうか、ICピン端子間の抵抗で確認する。表を作ってノートに記録しておく。

	I+	I-	V+	V-
I-				
V+				
V-				

- OK だったら、電気抵抗用試料をプローブに取り付ける。IC ピンをプローブの白いピンに挿す。
- 交流磁化率用試料をコイルに入れる。片方のピックアップコイルにのみ試料が入るように注意（→資料参照）。銅線をねじでプローブに固定する。（熱接触を良くするため）
- ロックインアンプをプローブにつなぐ。
- 測定ボックスのスイッチを標準抵抗側にし、出力電圧、周波数を設定する。Auto Phase ボタンを押す（→「位相の原点」を電流位相に合わせる）。その時の Phase と、 V_x , V_y の値を記録しておく。
- スwitchをコイル側に切り替え、 V_x , V_y を記録する。
- 試料の逆側のピックアップコイルに磁性体を入れ、 V_x , V_y の変化を記録する。
- プローブ先端にカバーをかぶせてねじ止めする。
- 測定用ケーブルをいったん取り外し、プローブをガラスデューワーに入れる。**デューワーを割らないように注意!**
- フランジをねじ止めする。均等に締め付ける。
- プローブに測定用ケーブルを取り付ける。
- バナナ端子付きケーブルや同軸ケーブルを配線する。

電気抵抗のチェック

- 電流源から直流電流を出力し、試料の電圧を測定する。
- 電流を反転させ、同様に電圧を測定する。
- 以上の作業をいくつかの電流値に対して行い、 $(V_+ - V_-) / 2$ がオーム則に従っていることを確かめる。
(ノートに記録すること)

[illegible]

交流磁化率のチェック

- 測定ボックスのスイッチを電気抵抗側にし、出力電圧、周波数を設定する。Auto Phase ボタンを押す（→「位相の原点」を電流位相に合わせる）。その時の Phase と、 V_x , V_y の値を記録しておく。
- スwitchをコイル側に切り替え、 V_x , V_y を記録する。
- 以上の測定をいくつかの出力電圧に対して行う。

（ノートに記録すること）

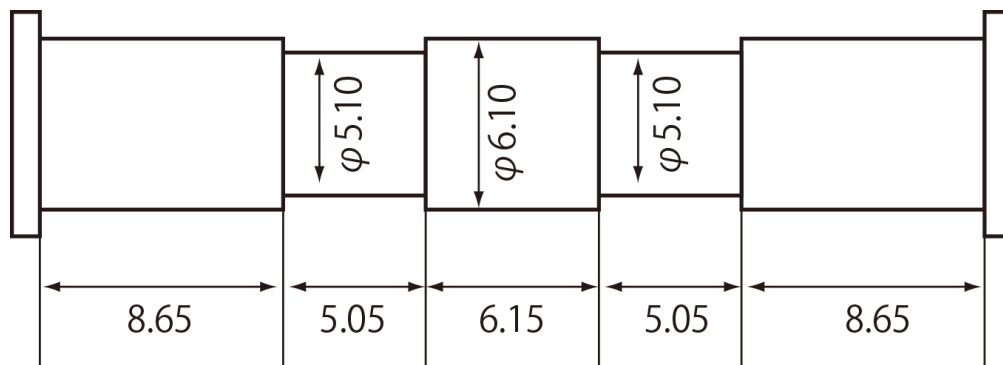
周波数: _____

出力電圧	V_x (電気抵抗)	V_y (電気抵抗)	Phase	V_x (コイル)	V_y (コイル)

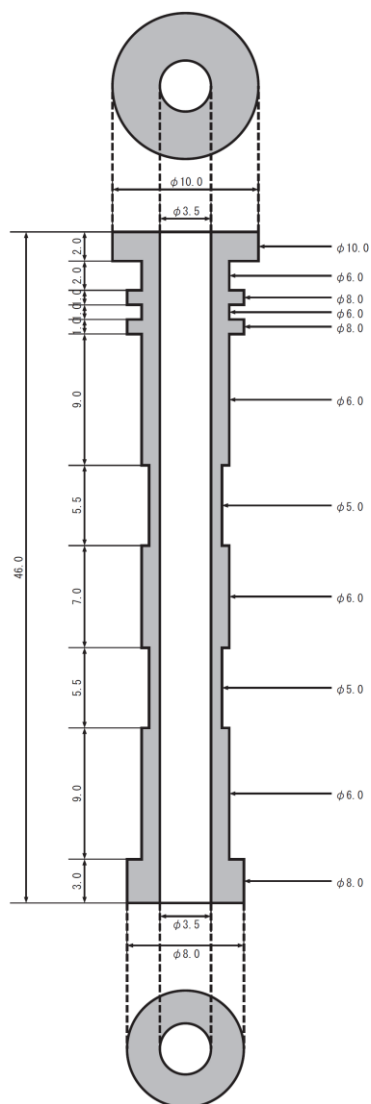
測定開始

- 電気抵抗用電流源の電流値を設定し、出力する。（上でオーム則が成立していると確かめた範囲内の電流値を使う）。**使う電流値はノートにきちんと記録しておくこと!**
- Lock-in アンプの出力電圧と周波数・位相を設定する。上で位相をチェックしたいいずれかの値を使う。**使う出力電圧などはノートにきちんと記録しておくこと!**
- 測定用プログラムを走らせる。ファイルに記録されていることを確かめる。
- 液体窒素を徐々にガラスデュワーに入れていく。入れ終わったらタオルでガラスデュワーの開口部を覆っておく。

交流磁化率の測定コイル (G1 用 (廊下側デュワー))



交流磁化率の測定コイル (G2 用 (窓側デュワー))



Group 2 用のコイル:

- ピックアップコイル: 222 巻き \times 2
- エキサイテーションコイル 605+47 巻き (最後の 47 巻きは銅線の出ている側)